

第96回

健康のススメ

板東 浩

いま、私は警察に護送されている。特に悪いことをしたわけではない。先頭のジープには機関銃を持った兵士が3名、そして車列が続き、最後尾にも同様のジープが。テールランプを点滅させながらの走行は、なかなか圧巻である。

実は、私が滞在している国は、西アフリカのナイジェリアだ。国際医学学会に参加した際、僻地の病院視察に、車50台で移動した時のこと。同国には不安定な事情もあり、1日中、諸外国からの参加者を警備して頂いた。このような護送はコンボイ(convoy)と呼ぶという。そうだったのか。昔の米国映画で、大型トラック運転手が主人公の「コンボイ」を思い出した。

僻地における人々の住居や生活、医療事情をみると、全く不十分なレベル。調べると、国民の7

割が1日1ドル以下の生活という。一方で、同国は有数の石油輸出国である。経済的に余裕があるはずだが、現実には異なる。なぜなのか。富の偏在が主な原因ではないだろうか。

このような状況は、発展途上国でみられる。日本でも同様の高度経済成長時代があったが、国民全体の生活が向上した。その一因が「護送船団(convoy)方式」だ。本方式で日本は目覚ましく発展し、近年は自由競争へ。この歴史が参考となり、ナイジェリア経済の適正化を期待したい。

なお、イギリスの年金改革論争では、convoyが重要キーワードに。社会保障制度は、最も弱い立場の人に合わせて設計すべきという意味だ。いま、年金問題で日本も揺らいでいる。しっかりと護送できる人はいないものか？(医学博士、内科医師)

「コンボイで救う」